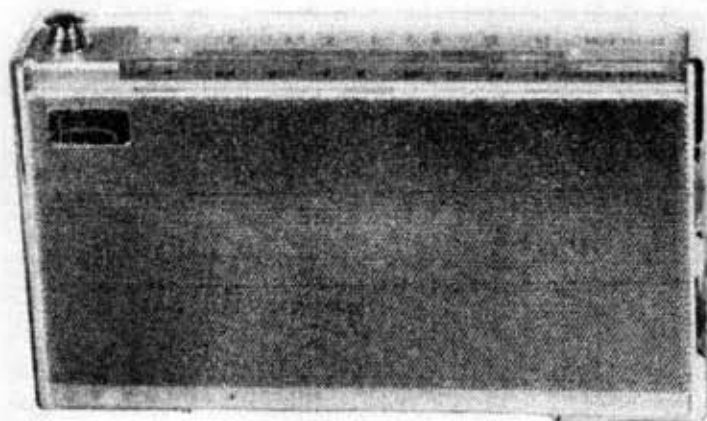
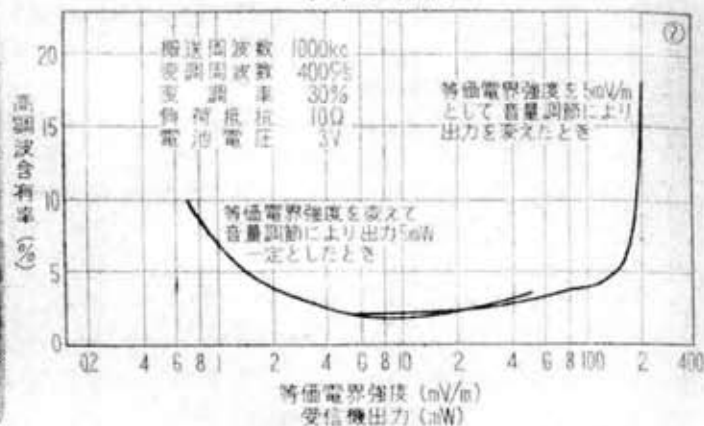


日立 8石 2 Band WH-855 形



ひずみ特性



回路構成

2バンド、8石、2ダイオードで局部発振回路は他励を用いている。ダイオードのうち1本は遅延AVC用。

短波は3.8~12Mcまでである。

スピーカは9×6.5センチの楕円形を使い、電源は単2が2本の3V。

測定結果

感度特性は、S/N=30dBで67dB前後(中波)と60dB前後(短波)であり、感度差も実用上さしつかえない範囲に入っている。

出力は無ひずみで190mWあり、このタイプとしては十分である。

妨害特性は、両バンドとも、イメー

ジ、中間周波の各特性はよく、ひずみも1000kcで2%(出力5mW)ぐらいでよい。

選択度は、左右少し不釣合だが、通過帯域幅は9.1kcとよい。

電氣的忠実度は、音質調節器がLow Highともふつうのカーブをしている。AVC特性も29dBだから悪くない。

その他

外観は、金色と薄いピンク色との2トンカラーで、ダイヤルは上面につき、比較的この種としてはダイヤルが長いので、調節しやすい。その上、短波用にファイナ・チューニングがついているのは親切だ。ロッドアンテナも自蔵で便利。

バリコンはボリボリで、IFTは7mm角。

(第3図)

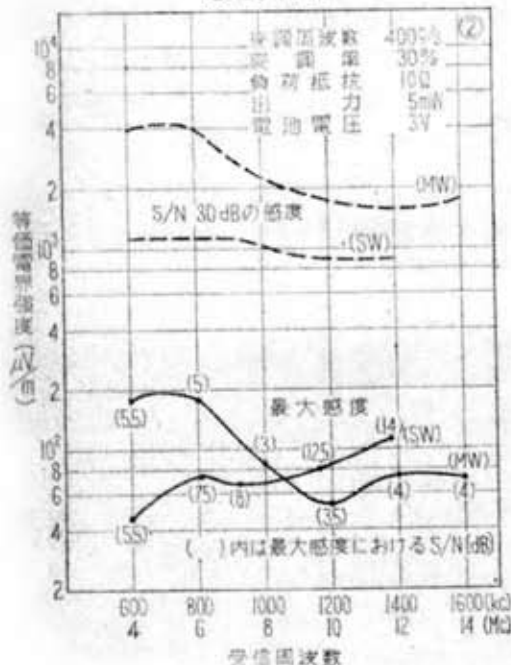
外形寸法は幅160×高さ98×奥行40(mm)

電源が単二になっているので、実際に使っていて、ずいぶん電池交換が楽だろうと考える。だいたい3Vから4.5Vクラスは、単三だとときに電池が消耗するきらいがある。大ききなどの関係で、どちらがどうとはいえないが、1つのアイデアではなからうか。

短波の場合は、13段伸縮ロッドアンテナをキャビネットに内蔵してあるので便利だ。

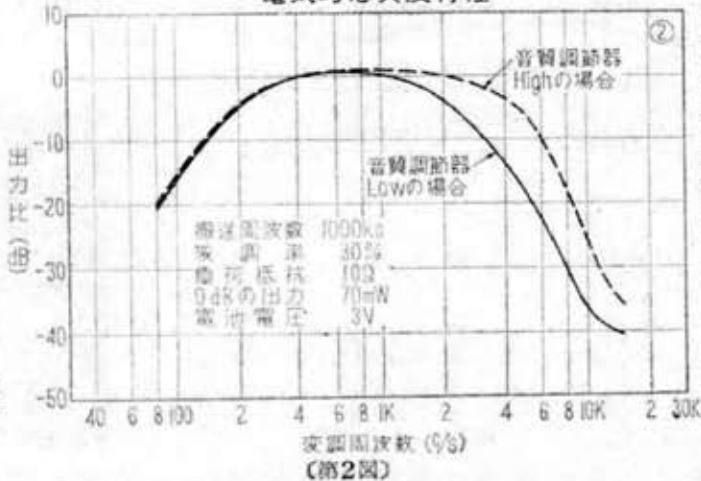
また主調の横行ダイヤルは、ギヤードドライブ式になっているので、動きもスムーズで、スリッパすることも少ない。

感度特性



(第1図)

電氣的忠実度特性



(第2図)

